

## 結果相を表すテアル文における動作主 —動作主不在説の検討—

新山聖也（筑波大学非常勤研究員）

## 1. はじめに

## 1.1 本発表の概要

テアル文には、(1a) のように、他動詞の目的語がガ格で標示されるパターンが存在する。そして、(1a) のようなテアル文の分析においては、見えない動作主（ゼロの動作主）が存在するものとして扱う影山（1996）や竹沢（2000）、Miyagawa and Babbyonshev（2004）等の立場（動作主存在説）と、動作主が存在しないものとして扱う近藤（2018）や漆原（2021）等の立場（動作主不在説）が存在する<sup>1</sup>。

- (1) a. 窓が開けてある。  
b. 太郎が窓を開けてある。

この発表では、動作主の有無について明示的に議論している影山（1996）と近藤（2018）を取り上げ、(1a)のようなテアル文における動作主の有無について論じる。特に、影山（1996）に対する近藤（2018）の反論を検討し、近藤（2018）の主張する動作主不在説が支持されないことを主張する。

## 1.2 本発表の目的

本発表の目的は、テアル文における動作主の有無を明らかにすることで、結果相と動作主の関係を整理することである。新山（2025）は、(2)のような、結果相の「{可能／受動} + テイル」において、動作主の顕在化は抑制されるが、ゼロの動作主が存在するという趣旨の議論を行っている。

- (2) a. 歯が丁寧に磨けている。 (新山 2025: 80)  
b. 着物が雑に畳まれている。 (新山 2025: 83)

テアル文の動作主不在説が正しいとすれば、あくまで新山（2025）の議論は、結果相のテイル文と動作主の関係を整理したに過ぎないことになる。一方、動作主存在説が正しいとすれば、結果相のテイル文とテアル文において、「結果相の文において、顕在的には生起できない動作主が統語構造上で存在している」という一般化が成り立つことになる。

本発表は生成統語論の枠組みから議論を行う。ただし、本発表の議論は、「結果相の文において動作主はどの程度背景化されるのか」という形で言い換えることもでき、特定の理論的立場に貢献することよりも、動作主と結果相の関係を捉えることに主眼を置く。

<sup>1</sup> ただし、漆原（2021）は、テアル文に動作主が生起しないことを根拠として、*i* のような例文を提示しており、見えない動作主の有無について議論する影山（1996）や近藤（2018）と前提を共有しているわけではない。

i a. 車が太郎によって駐車場に止められる。  
b. \*車が太郎によって駐車場に止めである。 (漆原 2021: 251)

## 2. 動作主存在説の概要

2 節では、動作主存在説を概観する。まず、影山（1996）は、脱使役化自動詞との比較において、テアル文における動作主の有無について論じている。脱使役化自動詞とは、意味的には動作主の存在が想定されるが、統語構造には動作主が生起しない自動詞を指す。

(3) および (4) のように、テアル文と脱使役化自動詞では、「わざと」や「～ために」、「丁寧に」のような動作主指向副詞との共起に差が見られる。

- (3) a. 廃屋に見せるために、わざと窓が壊してある。
- b. 箱に品物がていねいに詰めてある。
- c. プライバシーを守るために、意図的に名前が隠してある。
- (4) a. \*わざと、壁にグロテスクな絵が掛けている。
- b. \*プライバシーを守るために、生け垣が植わっている。
- c. \*箱にていねいに品物が詰まっている。

（影山 1996 : 187）

影山（1996）はこの観察を根拠として、テアル文には統語構造上に動作主が存在する一方で、脱使役化自動詞には統語構造上に動作主が存在しないものと主張している。

竹沢（2000）や Miyagawa and Babaynyshev（2004）も、直接的に影山（1996）の議論を参照しているわけではないが、統語構造上に他動詞の外項（動作主）である PRO が生起する構造を仮定しており、動作主が存在することを前提とする立場を取っている。ここでは、Miyagawa and Babaynyshev（2004）の提案する統語構造を (5) に示す。(5a) は、「窓が開けてある」、(5b) は「太郎が窓を開けてある」の構造である。(5a)においては、他動詞「開ける」の統語構造に外項（動作主）と内項（対象）が生起し、外項はゼロ代名詞である PRO として生起するものと仮定されている<sup>2</sup>。

- (5) a. [TP [VP [IP 窓 i-ガ [IP PRO<sub>i</sub> [vP t<sub>i</sub> [VP t<sub>i</sub> 開けテ]v]I]]アル]T]
- b. [TP 太郎 j-ガ [VP [TP t<sub>j</sub> [VP t<sub>j</sub> [VP 窓-ヲ 開けテ]v]T]アル]T]

（Miyagawa and Babaynyshev 2004 : 163 一部改変）

## 3. 動作主不在説の概要

### 3.1 場面描写性による分類

続いて、3 節では、動作主不在説の立場を取る近藤（2018）の議論を概観する。

前提として、益岡（1984, 1987）では (6a) のようなテアル文を A 型、(6b) のようなテアル文を B 型と呼ぶ。A 型テアル文は他動詞の目的語が主語となるパターンで、受動型とされる。B 型テアル文は、動作主がそのまま主語となるパターンで、能動型とされる。

- (6) a. 崩した古材や板が積み上げてあった。（松本清張『投影』）

<sup>2</sup> なお、(5a) の構造においては、内項が TP まで上昇しない構造が仮定されている。これは、<sub>i</sub> のように、内項が主語となるテアル文において、内項が自分と同一指示関係を持てない（内項が主語性を十分に持たない）という観察を反映したものである。

i \*花子<sub>i</sub>が自分<sub>i</sub>の先生に紹介してある。（Miyagawa and Babaynyshev 2004 : 172）

- b. 水曜日はお勤めが休みだと聞いたから、私は一日中、身を明けてあるのだよ。（柴田翔「立ち盡す明日」）（益岡 1984：123 下線は発表者による）

また、益岡は A 型テアル文を「場面描写文（場面描写表現）」であると述べている。近藤（2018）は、これを踏まえ、場面描写性によって A 型テアル文と B 型テアル文を分類することを提案している。近藤（2018）は場面描写性を（7）のように定義している。

- (7) 場面描写とは、ある時間・空間における場面を五感でとらえたままに言語化することである。（近藤 2018：12）

場面描写性による分類の意義は、(8) と (9) の違いを捉えられる点にある。(8) と (9) は、いずれも、内項がガ格で標示されるが、(8) のように場面描写性を持つテアル文は A 型テアル文、(9) のように場面描写性を持たないテアル文は、B 型テアル文に分類される。

- (8) a. 壁に絵がかけてある。(A型)  
b. 窓が開けてある。(A型) (近藤 2018：7)
- (9) a. ベストメンバーが選んである。(B型)  
b. 予定が組んである。(B型) (近藤 2018：7)

近藤（2018）は、先行文脈の情報をできるだけ排除した「青天の霹靂文脈」によるテストを用いて、場面描写性の有無を測っている。具体的には、(10) のように「あなたが今いる場所の様子を教えてください」という質問の返答として適切となる文が A 型テアル文、不適切になるものが B 型テアル文とされている。

- (10) 「あなたが今いる場所の様子を教えてください」という質問の返答として  
A型テアル文

- a. 壁にピカソの絵がかけてある。  
b. (この寒いのに) 窓が開けてある。

B型テアル文

- c. #壁にピカソの絵をかけてある。  
d. #机の上にプレゼントを置いてある。  
e. #電気屋に修理が頼んである。  
f. #専門家が雇ってある。 (近藤 2018：18-19 抜粋)

近藤（2018）では、A 型テアル文と B 型テアル文の違いが、テアル文の意味解釈とも関係しているものとされている。すなわち、(10a,b) の A 型テアル文は結果状態を表す継続相（結果相）を表し、(10c-f) は効力の持続を表すパーエクト相を表すものとされる。

### 3.2 A 型テアル文と B 型テアル文の統語構造と動作主の有無

以上を踏まえ、近藤（2018）は、A 型テアル文と B 型テアル文が、異なる統語構造を持つと主張している。(11) に、近藤（2018）の提案する統語構造を示す。(11) では、動詞の構造として内項が生起する VP と外項が生起する vP を仮定し、「動詞+テアル」において動詞とアルがそれぞれ VP と vP (v<sub>asp</sub>P) を派生するという補文構造が想定されている。B 型テアル文における内項の格標示としてガとヲの両方が想定されていることからも、近藤

(2018) では、格標示ではなく、場面描写性の違いを捉えることを重視している<sup>3</sup>。

(11) a. A型テアル文

[TP[v<sub>asp</sub>P[VP[VP 窓-ガ 開けテ]ar] v<sub>asp</sub>]u]

b. B型テアル文

[TP[v<sub>asp</sub>P[VP[VP {太郎-ガ/pro} [vp 窓- {ヲ/ガ} 開けテ]v]ar] v<sub>asp</sub>]u]

(近藤 2018: 113-115 を参照して作成)

本発表において重要な点は、A型テアル文には他動詞の動作主が統語構造上に存在しないものとしているのに対し、B型テアル文には他動詞の動作主が存在する点である。この点について、近藤 (2018) は、テアル文に動作主が存在すると主張する影山 (1996) に対する反論を行っている。根拠としては、「青天の霹靂文脈」テストにおいて (12) のような動作主指向副詞と共に起するテアル文が成立しないという観察が提示されている。

(12) (あなたの居る場所の様子を教えて下さい。)

a. #部屋にアクセントをつけるため、壁に絵がかけてある。

b. #空気を入れ替えるため、窓が開けてある。

c. #わざと壁にグロテスクな絵が掛けている。

(近藤 2018: 105)

つまり、近藤 (2018) は、動作主指向副詞が共起するテアル文はパーフェクト相を表すB型テアル文であるため、A型テアル文には動作主が存在しないと論じている。近藤 (2018) におけるテアル文の分類は、表1のようにまとめられる。

表1 近藤 (2018) におけるテアル文の分類

	意味	場面描写性の有無	動作主の有無
A型テアル文	結果状態を表す継続相(結果相)	場面描写性あり	動作主が存在しない
B型テアル文	効力の持続を表すパーフェクト相	場面描写性なし	動作主が存在する

<sup>3</sup> (11) の構造の根拠として、近藤 (2018) は尊敬語化に基づく主語性の問題も議論している。B型テアル文においては、尊敬語化が可能であり、ii a では動作主である社長が、ii b では見えない動作主が、それぞれ敬意の対象となる。よって、B型テアル文においては、動作主が顕在的に存在する場合も、見えない場合も、動作主が主語であるとみなされる。

一方、i の A型テアル文においてはそもそも尊敬語化が不可能であり、他動詞の目的語は敬意の対象とならず、ゼロの動作主が敬意の対象となることもできない。このように、近藤 (2018) は、尊敬語化に関する観察から、A型テアル文が主語を持たない文であると主張する。

i a. \*椅子に先生が縛りつけておありになる。

b. \*社長が閉じ込めておありになる。

ii a. 社長が会長を呼んでおありになる。

b. 会長が呼んでおありになる。

(近藤 2018: 74-75)

本発表では、このような違いを、結果状態から過程が逆算可能であるか否かに由来するものと考える(5節参照)。すなわち、結果状態から、動作主が敬意の対象であるかを判別できないため、A型テアル文が不自然になるものと考える。なお、テアル文の主語性に関しては、Miyagawa and Babynshev (2004) にも議論がある。

#### 4. 動作主不在説の批判的検討

4 節では、以上のような近藤（2018）の主張が持つ問題点について検討を行う。

##### 4.1 動作主指向副詞の生起可能性

4.1 節では、動作主指向副詞の生起可能性について再検証を行う。前提として、近藤（2018）の指摘する通り、「わざと」などの副詞と共に起するテアル文は、「青天の霹靂文脈」においては不適格である。しかし、影山（1996）においては、動作主指向副詞として、様態副詞である「丁寧に」等も取り上げられていた。更に、(13) のように、「器用に」「雑に」「乱暴に」なども動作主指向副詞であると考えられる。このように、近藤（2018）の事実観察は、動作主指向副詞の中での一部に限られており、問題がある。

- (13) a. 子供がおもちゃを {丁寧に/器用に/雑に/乱暴に} 箱に入れた。  
b. おもちゃが {\*丁寧に/\*器用に/\*雑に/\*乱暴に} 箱に入っている。

まず、(14) のように、「丁寧に」や「雑に」等の動作主指向副詞は「青天の霹靂文脈」であっても生起可能である。近藤（2018）の議論に従うのであれば、「青天の霹靂文脈」において成立するテアル文は、A型テアル文と認定することが可能であり、A型テアル文にも動作主指向副詞が生起可能であることがわかる。

- (14) 「あなたが今いる場所の様子を教えてください」という質問の返答として  
a. 皿の上に料理が丁寧に盛り付けてある。  
b. 機材のケーブルが器用にまとめてある。  
c. 本棚に雑誌類が雑に押し込んである。  
d. 引き出しの中に書類が乱暴に突っ込んである。

次に、近藤（2018）では取り上げられていないが、知覚動詞の補部への生起も、近藤（2018）の認定する A型テアル文か否かを測るテストになる。上山（2007）では、知覚動詞の補部には、現象描写文（description）しか生起できないとされている。現象描写文は「ある時間・空間における場面を五感でとらえたままに言語化する」点で場面描写性を持ち、知覚動詞の補部に生起するテアル文は、A型テアル文と認定できる<sup>4</sup>。(15) のように「丁寧に」等の様態を表す動作主指向副詞と共に起するテアル文は知覚動詞の補部に生起可能である。このような観察も、A型テアル文に動作主指向副詞が生起できることを示しており、A型テアル文に動作主が存在する可能性を示唆する。

- (15) a. [皿の上に料理が丁寧に盛り付けてある]のを見かけた。

<sup>4</sup>近藤（2018）は、A型テアル文を「場面描写文」であるとし、現象描写文とは区別している。実際、A型テアル文は；のように有題文として生起可能であることから、無題文であることを前提とする現象描写文とは認定されないものもある。

i 床の間には花が飾ってある。 (近藤 2018: 16)  
このように、場面描写文は現象描写文より広い範囲を表している。逆に言えば、少なくとも現象描写文である場合には、場面描写文であるという関係が成立する。

- b. [機材のケーブルが器用にまとめてあるの]を見かけた。
- c. [本棚に雑誌類が雑に押し込んであるの]を見かけた。
- d. [引き出しの中に書類が乱暴に突っ込んである]のを見かけた。

最後に、実例を確認する。(16) は食べログのレビュー、(17) は Twitter (現 X) のポストである。いずれも、投稿に写真が添付されており、写真に映った様子を描写する文である。そして、いずれも「丁寧に」や「雑に」という動作主指向副詞と共にしている。

- (16) 1~2分で到着。早い！白ごはん、漬物、冷奴、味噌汁。中皿にハンバーグ、サラダ、フライドポテト、ソーセージが丁寧に盛り付けてある<sup>5</sup>。
- (17) ローソン 100 の新作おにぎり、もはや「おにぎり」とすら書いてなくて最高ナゲットのようなものが米の中に雑に押し込んである<sup>6</sup>

近藤 (2018) では、A 型テアル文が動作主指向副詞と共にできないことを根拠に、A 型テアル文には動作主が存在しないと主張されていた。一方、以上の事実観察から、A 型テアル文であっても動作主指向副詞と共に可能であることがわかる。よって、近藤 (2018) の認定する A 型テアル文の統語構造にも、動作主は存在するものと考えられる。

#### 4.2 テアル文の意味と動作主指向副詞の共起

また、表 1 にまとめた通り、A 型テアル文は結果相を表し、B 型テアル文はパーフェクト相を表す。この事実は、(18) のように、共起可能な時間副詞から確認できる。つまり、(18a) のように、パーフェクト相を表す B 型テアル文においては主節がル形であっても過去の副詞と共に可能であるが、結果相を表す A 型テアル文においては過去の副詞とは共起できず、現在の副詞とのみ共起可能である。この事実は、A 型テアル文が現在の結果状態を表すのに対し、B 型テアル文がパーフェクトを表すことを示している<sup>7</sup>。

- (18) a. 昨日論文を送ってある。 (B型)
- b. \*サイドボードの上に昨日人形が飾ってある。 (A型)
- c. サイドボードの上にいま人形が飾ってある。 (A型) (近藤 2018 : 26)

表 1 を踏まえると、動作主指向副詞と共に起するテアル文が B 型テアル文であるという近藤 (2018) の主張は、動作主指向副詞と共に起するテアル文がパーフェクト相を表すという帰結をもたらす。しかしながら、テアル文が「～ために」や「わざと」と共起したとしても、共起できる時間副詞は特に変化しない。

- (19) a. 空気を入れ替えるため、{いま/\*昨日} 窓が開けてある。
- b. {いま/\*昨日} わざと壁にグロテスクな絵が掛けている。

以上の観察から、動作主指向副詞と共に起するテアル文が、パーフェクト相であるとは考

<sup>5</sup> <https://tabelog.com/osaka/A2701/A270407/27053988/dtlrvwlst/B491658498/>

(2025年10月10日最終閲覧)

<sup>6</sup> <https://x.com/xxxlililxxx/status/971191870742085632> (2025年10月10日最終閲覧)

<sup>7</sup> 益岡 (1984) では、過去の副詞の生起に関して、B 型の下位分類である B<sub>1</sub> 型と B<sub>2</sub> 型で差が見られることを指摘している。よって、B 型の振る舞いも一様であるとは言えない。

えにくい。よって、やはり、動作主指向副詞の有無は、近藤（2018）の認定する A 型テアル文と B 型テアル文の分類とは、無関係であると考えられる。つまり、A 型テアル文であっても、動作主指向副詞とは共起可能であり、動作主が統語構造上に存在することになる。

## 5. 結果状態と過程

では、「わざと」という動作主指向副詞が「青天の霹靂文脈」とはなじまないという近藤（2018）の観察は、何を捉えたものだったのだろうか。本発表では、結果状態から過程が逆算可能であるか否かという違いを捉えていたものだと考える。つまり、「わざと」や「～ために」という動作主の意図が、結果状態を見ただけでは逆算できないため、「青天の霹靂文脈」とはなじまなかつたのだろう<sup>8</sup>。一方、「丁寧に」「器用に」「乱暴に」「難に」のような動作主指向副詞は仁田（2002）において様態の副詞と分類される副詞群であり、結果は含意されないが、結果から様態が連想されやすい。この違いが、「青天の霹靂文脈」となじまない「わざと」等と「青天の霹靂文脈」に生起可能な「丁寧に」の違いであると考えられる。

結果表現の選択について実験を行った副島（2024）では、テアル文は特に変化の過程を意識する場合に用いられるとされる。また、渡辺（2023）では、存在表現の選択において、テアル文の選択には意志性が関与するとされる。これらの議論を総合すると、結果相を表すテアル文は、結果状態を述べるとともに、結果状態が成立する過程や動作主の関与を述べる文であると言えるだろう<sup>9</sup>。よって、基本的には、テアル文が結果相を表す場合も、動作主の存在は意識され、統語構造上にも動作主が存在するものと考えられる。

## 6. まとめ

本発表では、動作主不在説の妥当性について検討し、(20a) の主張を行った。すなわち、影山（1996）や竹沢（2000）、Miyagawa and Babayonyshov（2004）において想定されているように、結果相を表すテアル文にも、動作主は存在すると考えられる。

そして、新山（2025）の議論と (20a) の議論を踏まえると、(20b) のような一般化が可能となる。(20b) は、「{可能/受動} + テイル」においても顕在的な動作主が抑制されるものの、動作主指向副詞との共起可能であることを踏まえた結論である。

- (20) a. 結果相を表すテアル文も含めて、テアル文の統語構造上に動作主が存在すると捉える動作主存在説の立場が妥当である。

<sup>8</sup> 森山卓郎氏から、「絵がわざと斜めにかけてある」のような文であれば、「青天の霹靂文脈」であっても成立するのではないかと指摘を受けた。この場合は、「斜めにかかった絵」という情報から、意図が読み取りやすくなつた結果、「わざと」が使えるようになったと考えられる。

<sup>9</sup> 副島（2024）では、変化の過程を意識しない場合には、サレティルや「自動詞+ティル」が用いられやすいと述べられている。

- b. 結果相を表す文において、顕在的な動作主は生起できないが、見えない動作主が統語構造上に存在する。

## 参考文献

- 上山あゆみ (2007) 「文の構造と判断論」長谷川信子 (編) 『日本語の主文現象』 pp.113-144, ひつじ書房.
- 漆原朗子 (2021) 「「テアル構文」とその周辺に関する覚書」岡部玲子・八島純・窪田悠介・磯野達也 (編) 『言語研究の楽しさと楽しみ』 pp.243-254, 開拓社.
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論』くろしお出版.
- 近藤かおり (2018) 『テアル構文の統合的研究：主語性、格配列、および文法化をめぐって』南山大学博士論文.
- 副島健作 (2024) 「音声言語における結果表現の使い分け：過程の知覚はどう影響するか」『社会言語科学』 27-1, pp.127-142.
- 竹沢幸一 (2000) 「アルの統語的二面性：be/haveとの比較に基づく日本語のいくつかの構文の統語的解体の試み」『東アジア言語文化の統合的研究 平成9-11年度筑波大学学内プロジェクト報告書』 pp.76-100.
- 新山聖也 (2025) 「現代標準語における統語的逆使役と結果相」『日本語文法』 25-1, pp.71-87.
- 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』くろしお出版.
- 益岡隆志 (1984) 「「-である」構文の文法」『言語研究』 86, pp.122-138.
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法』くろしお出版.
- 渡辺誠治 (2023) 『現代日本語の存在を表す諸表現：「アル」「イル」「ティル」「テアル」』日中言語文化出版社.
- Miyagawa, Shigeru and Maria Babayonyshev (2004) The EPP, unaccusativity, and the resultative constructions in Japanese, *Scientific Approaches to Language*. 3, pp.159-185.